

ひかりのこ

1月園便り

聖ミカエル幼稚園
2014年1月21日発行

月主題：育ちあう仲間

いよいよ今年度最後の学期が始まりました。そして2014年のスタートです。皆様、明けましておめでとうございます。今年も聖ミカエル幼稚園をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3学期もたくさん行事が予定されています。お餅つき、観劇会、書き初め、節分、おひなまつり、来年度入園のお友達を迎える1日入園、そして3月には年長さんのお別れ会と卒園式。また、園庭には冬休み中に忠志先生が毎日毎日こつこつ雪を積み上げて作った立派な雪山ができました。米そりや長いそりで遊ぶ子ども達の歓声が今から楽しみです。子ども達は多くの行事や日常生活の中で、お互いに大きく大きく成長していくことでしょう。

私ごとですが、私の娘が成人式を迎えました。2番目の子どもですが、娘のため、長男とはまた違って娘が生まれた時から「成人式には晴着を着せるのだ！」と楽しみにしていました。長男の時は背広一着を作り玄関で行ってらっしゃいをしましたが、娘となると大変です。去年のうちから晴着を揃え、成人式当日は朝美容院に娘を送り、支度が済んだら会場までまた送り、と一家の一大行事でした。大騒ぎの1日でしたが、全てが終わってなんだか気が抜けてしまいました。本当に子育てはあっという間なんだなあ、とつくづく感じます。これからはもう成人した大人として、接していくことになります。

仕事を続けながらの子育てだったため、自分や夫の両親や、保育園や学校の先生方、学童保育の先生方に支えられました。そして子どもの病気でもちゅうお休みを取らなくてはならないため、職場の仲間たちに本当にお世話になりました。何とかここまで来ましたが、綱渡りのようなあまり余裕のない子育てでした。今思うと幼児期の一番かわい盛りにもっともっとゆったり、一緒にいたかったなあ、と思います。幼稚園のお父さん、お母さん、今、お子さんとびったり一緒にいられる時期をどうぞ大切にしてください。子育ては、はたから見ると毎日楽しいわけではなく、大変なことも多いのですが、そんな時期は一生の中のほんの一瞬で過ぎてしまいます。あとで思い返せば、あんなに楽しい時期はなかったなあ、と思うのです。どうぞ子育てを楽しんでください。教職員の私たちも、お父さん、お母さんと力を合わせながら、価値あるこの仕事を喜んで楽しんで行っていきたくと思います。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

新年おめでとう御座います。

2014年と言う新しい年が始まりました。朝日が昇り夕日が沈む日々に何か驚くほどの変化があるわけではありませんが、人々は時間の流れにけじめをつけ、新年と言う区切りを定めます。きっと誰もが気持ちを入れ替える心機一転のきっかけを必要としているからでしょう。

1622年、キリスト教会が1月1日を新しい年の初めにすると決める前までは、心機一転のきっかけになる新年は3月でした。キリスト教会が1月1日を新しい年の初めの日と決めた理由は、12月25日の降誕日にお生まれになった幼子のイエス様が始めに教会に行って祝福してもらった日が1月1日だからです。そして、この日、幼子はイエスと言う名前をもらいます。この名前には、「すべての人を救う方」という意味があります。

キリスト教会は、イエス様が始めて教会に行って祝福してもらったこの日を新しい年の元旦に決め、神様の祝福によって新しい年を迎えるようにと皆を励ましたかったかも知れません。つまり、幼子のイエス様が「すべての人を救う方」という意味の名前をもらったことを覚え、新しい年、何が起こるかかわからないが、何が起ころうとも「すべての人を救うイエス様」が助けてくださるならばきっと大丈夫と言うメッセージを世界の皆に伝えたかったかも知れません。

今年も1月1日から、2014年という新しい年が始まりました。どうか、この新しい一年は、ミカエル幼稚園に連なるすべての人々が「すべての人を救う方」であるイエス様に助けられ、平安の内に過ごすことができるように祈ります。

「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。」(聖書)

チャブレン 司祭 ジョシュア 李 香男